

【発題】
六甲部の現状と将来

2016/11/12 六甲部会

報告内容

数値とグラフで見る六甲部（過去8年間）

現状から将来への問題点

クラブ存続のために

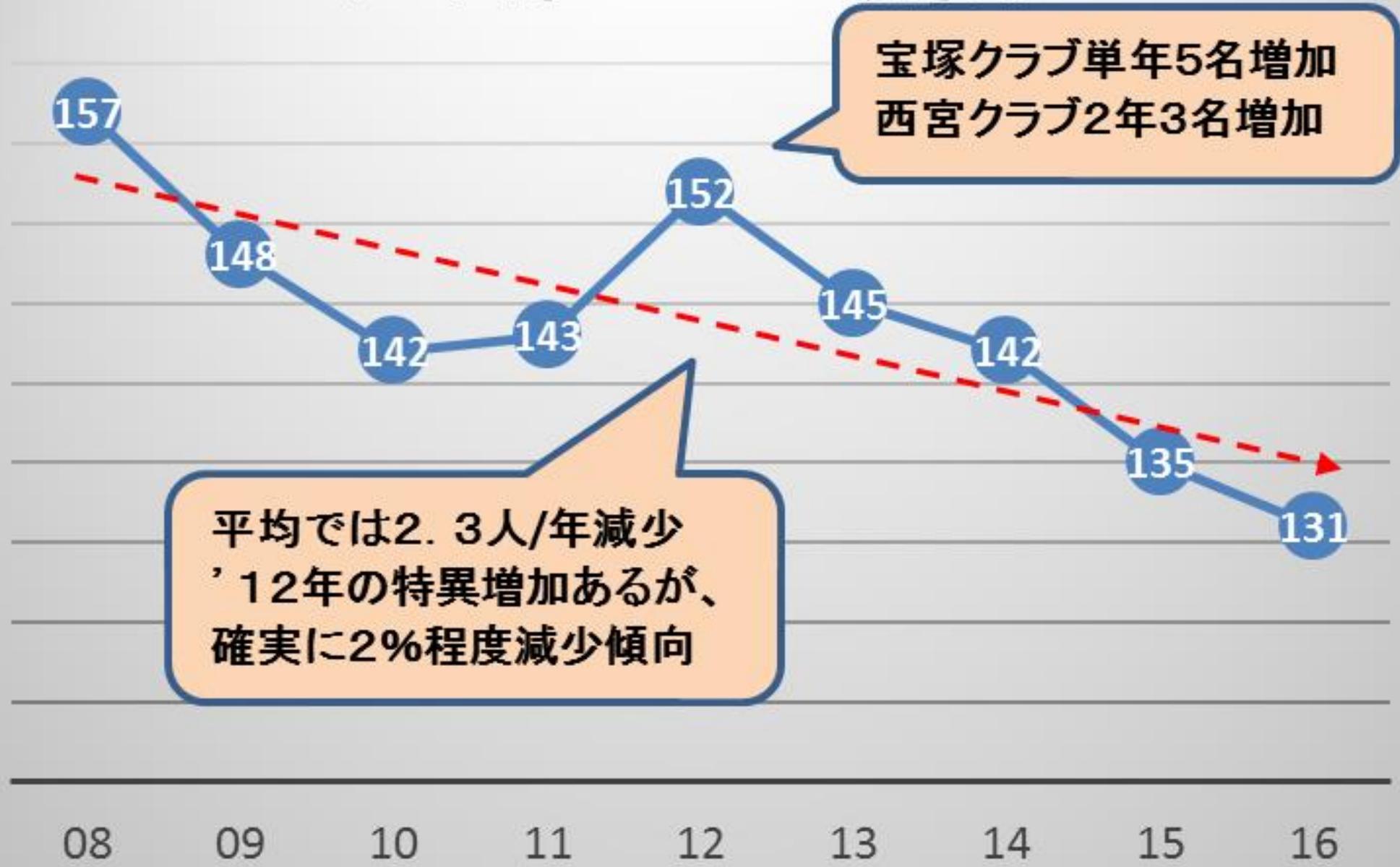
若手が増えない（奉仕活動に関する調査研究から）

どうすれば良いか

私たち自身の変革も必要

結論

六甲部メンバー数推移



08

09

10

11

12

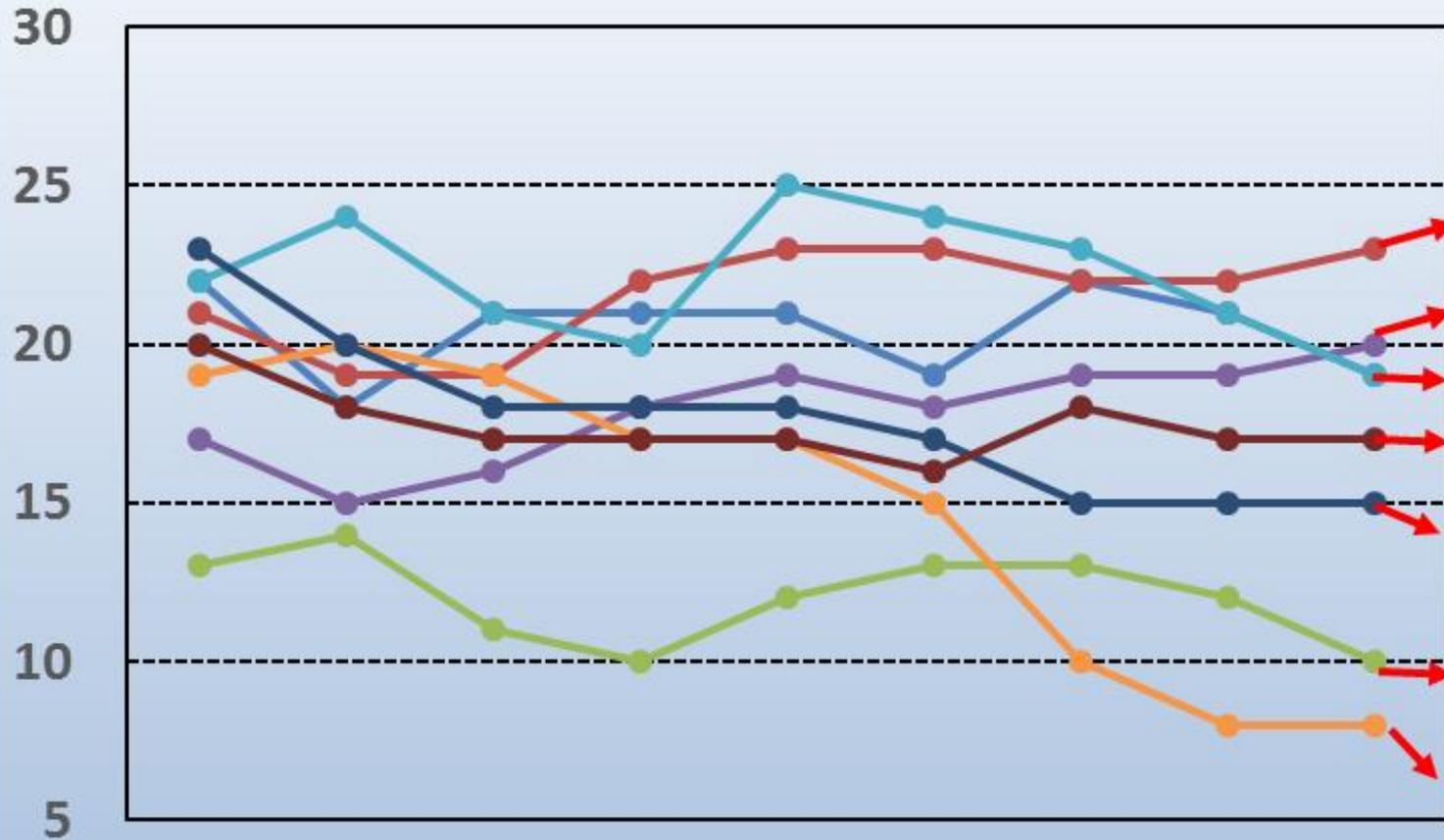
13

14

15

16

クラブ別メンバー数推移



- 神戸
- 神戸西
- 神戸ポート
- 神戸学園都市
- 西宮
- 宝塚
- さんだ
- 芦屋

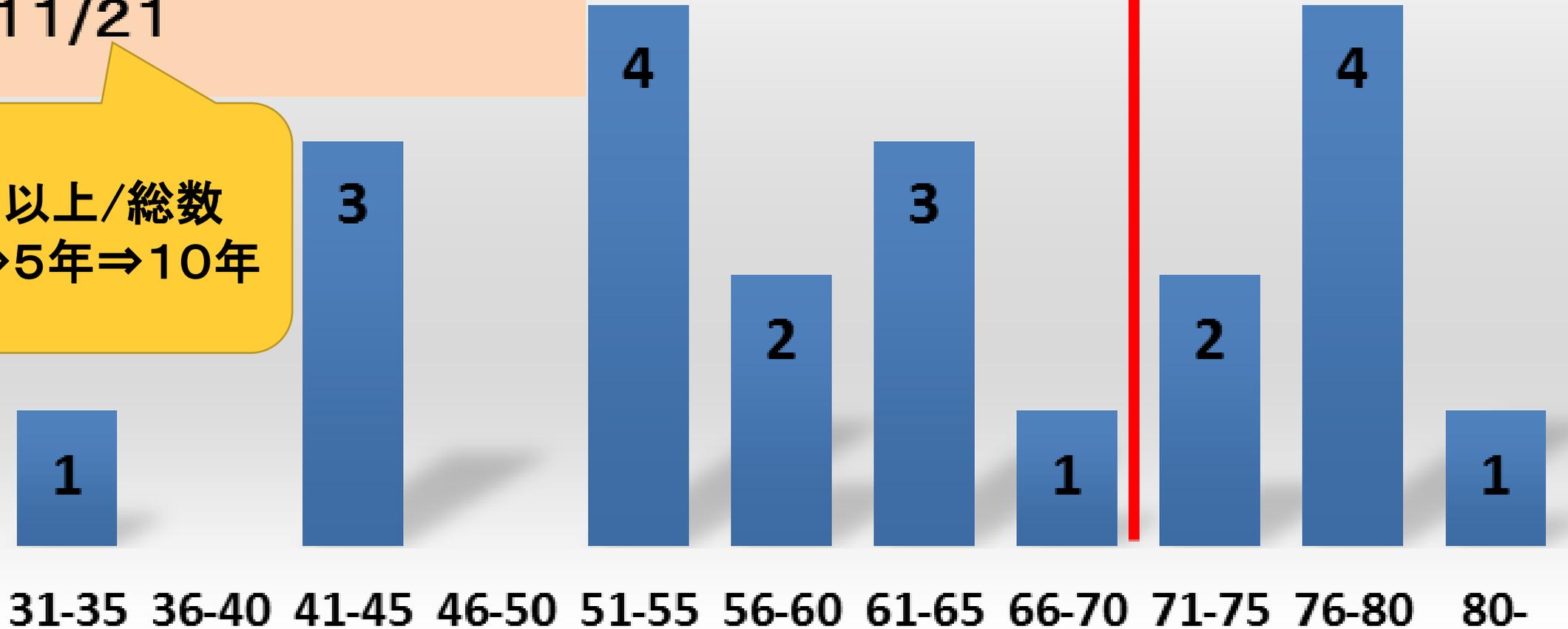
推移の傾向

神戸クラブ年齢別メンバー数(2015)

横ばい ('15)21名
7/21⇒8/21⇒
11/21

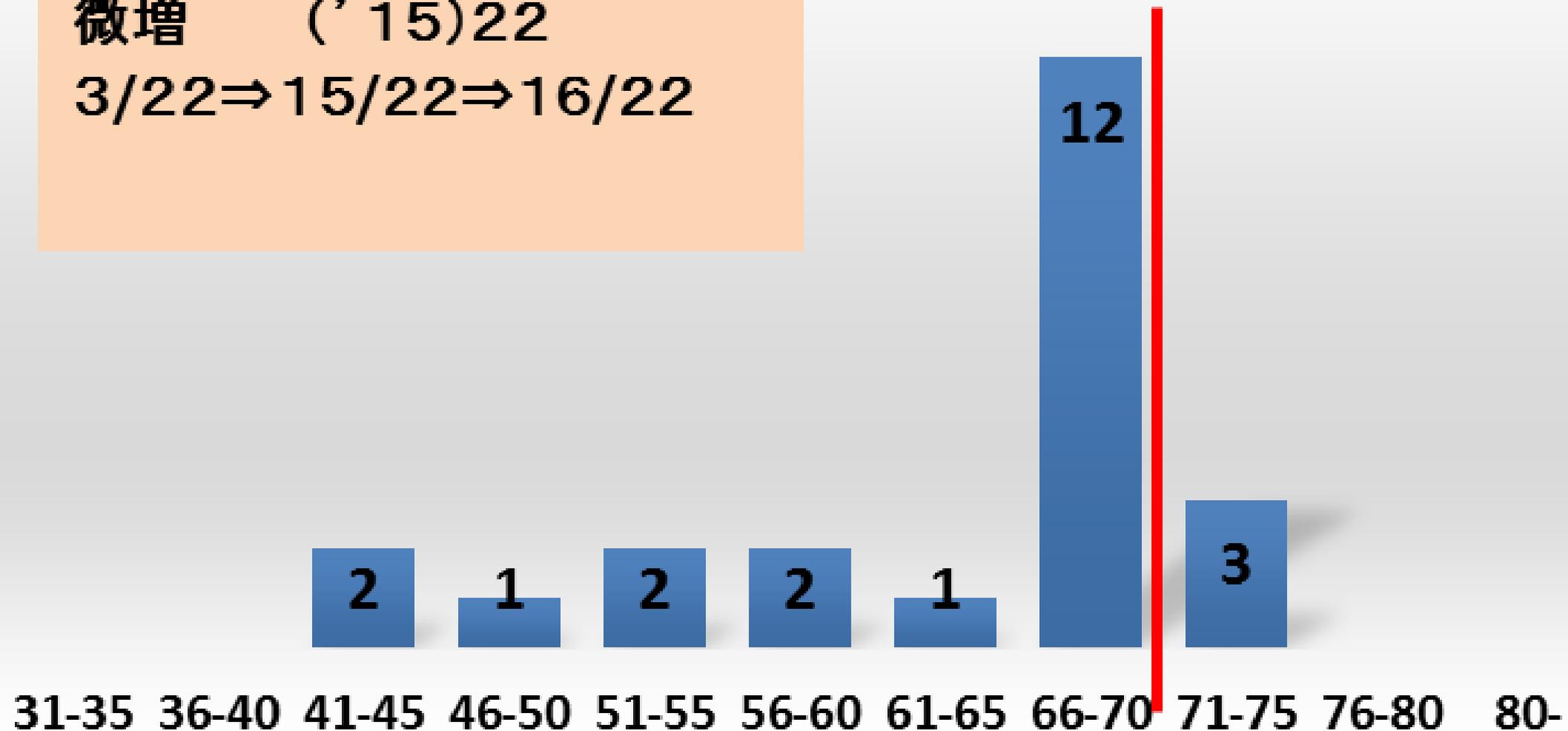
2015年総数

71歳以上/総数
現状⇒5年⇒10年



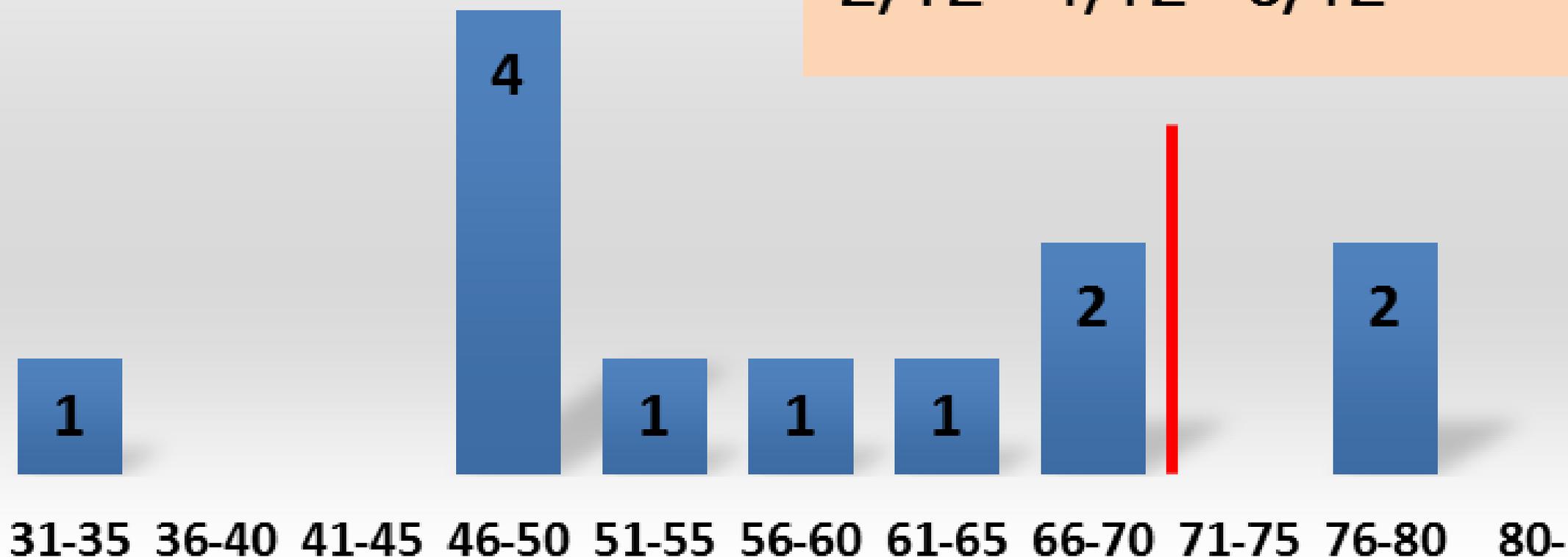
西宮クラブ年齢別メンバー数(2015)

微増 ('15)22
3/22⇒15/22⇒16/22



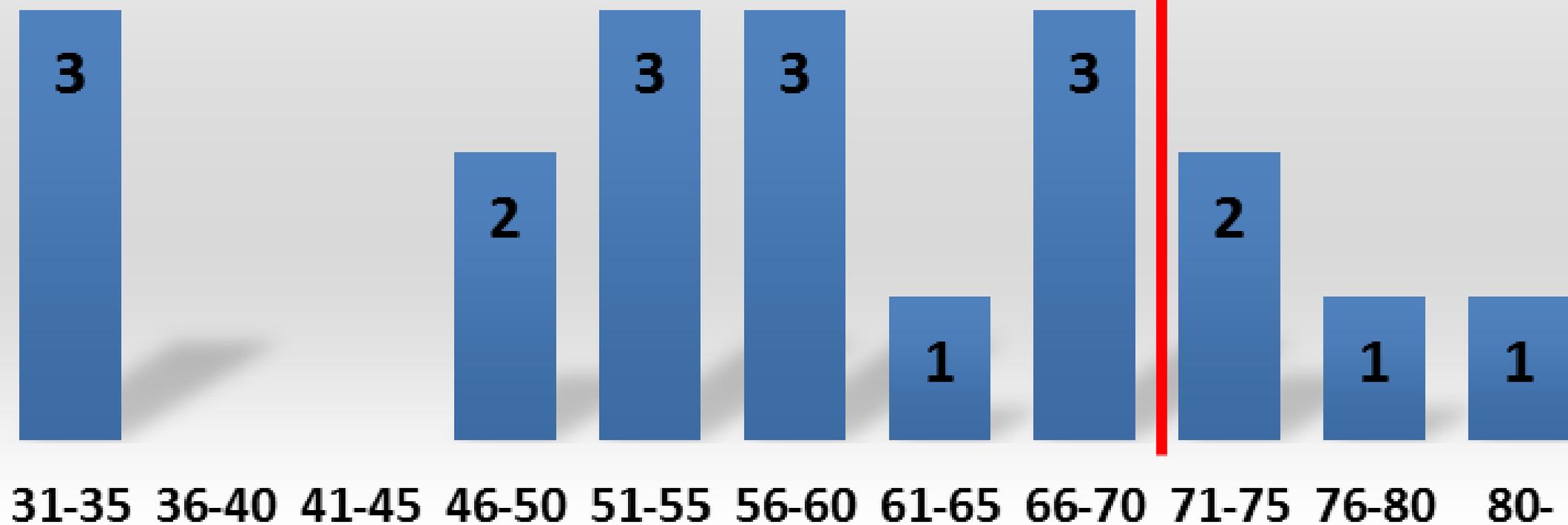
神戸西クラブ年齢別メンバー数 (2015)

横ばい ('15) 12名
2/12⇒4/12⇒5/12



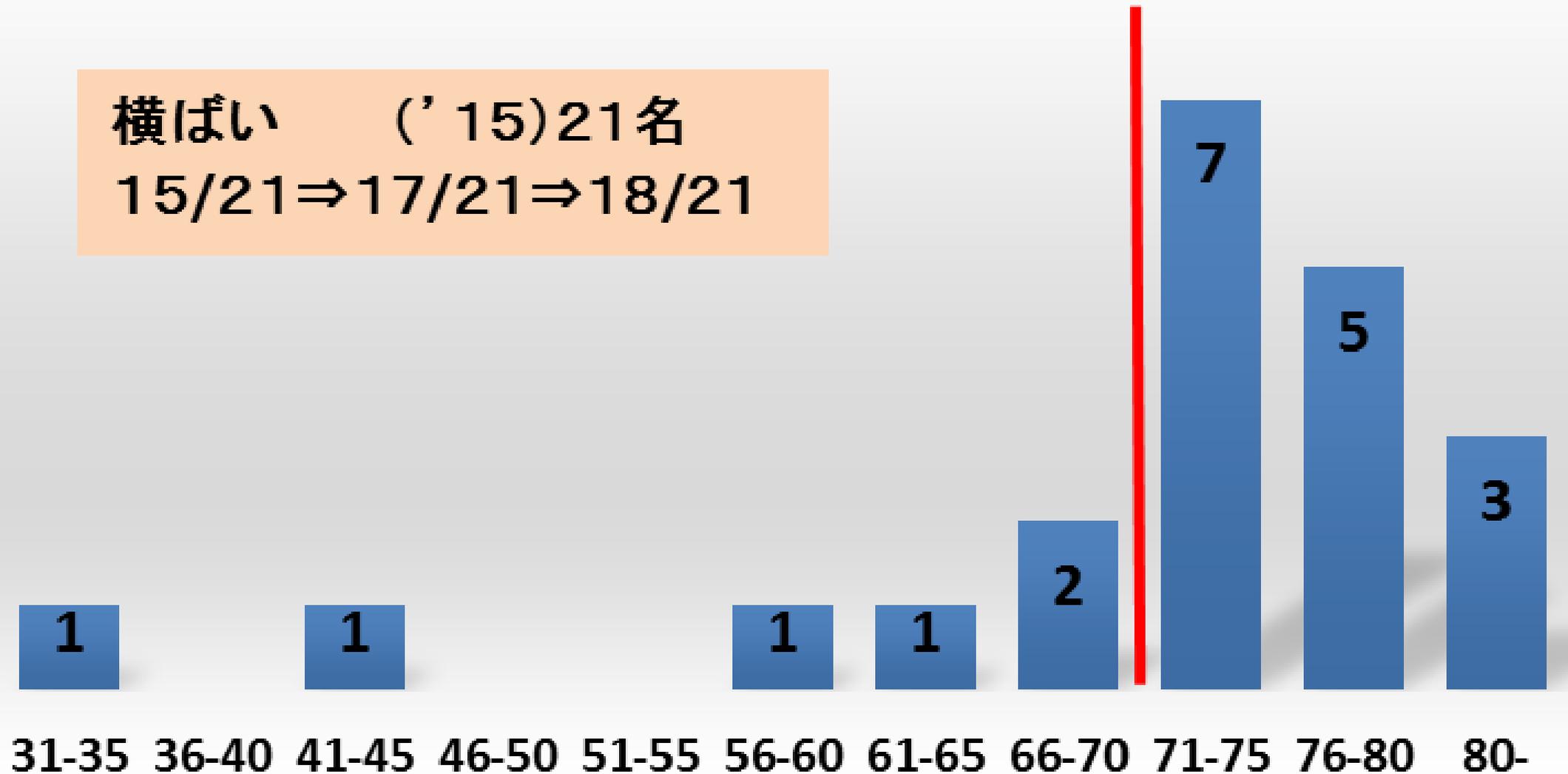
神戸ポートクラブ年齢別メンバー数 (2015)

微増 ('15)19名
4/19⇒7/19⇒10/19



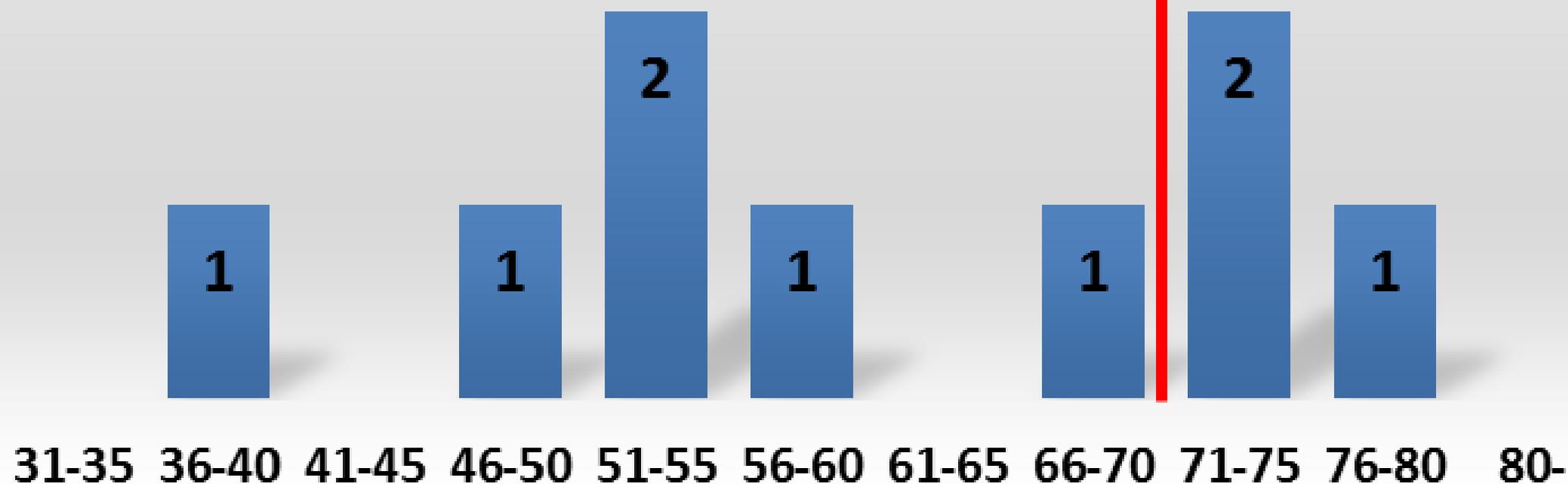
宝塚クラブ年齢別メンバー数(2015)

横ばい ('15)21名
15/21⇒17/21⇒18/21



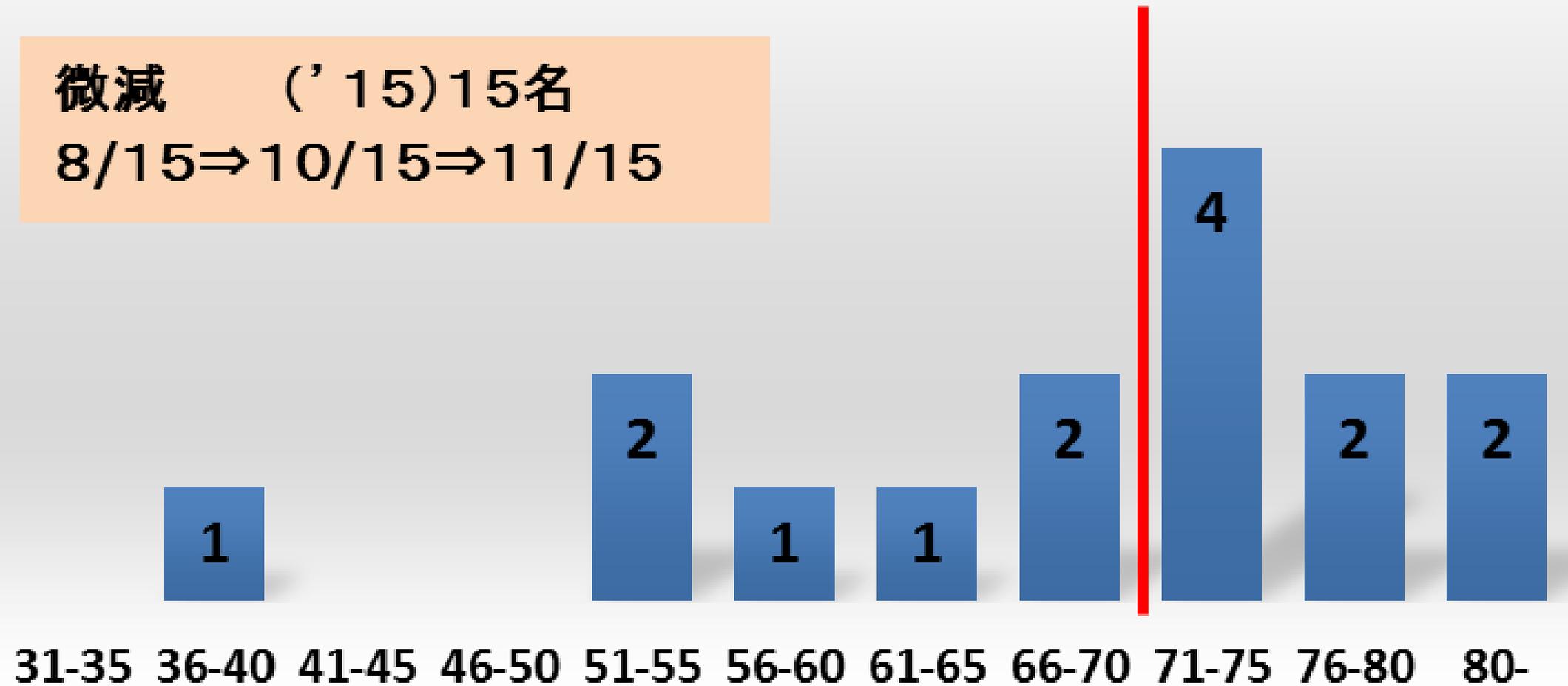
さんだクラブ年齢別メンバー数 (2015)

減少 ('15)8名
3/8⇒4/8⇒4/8



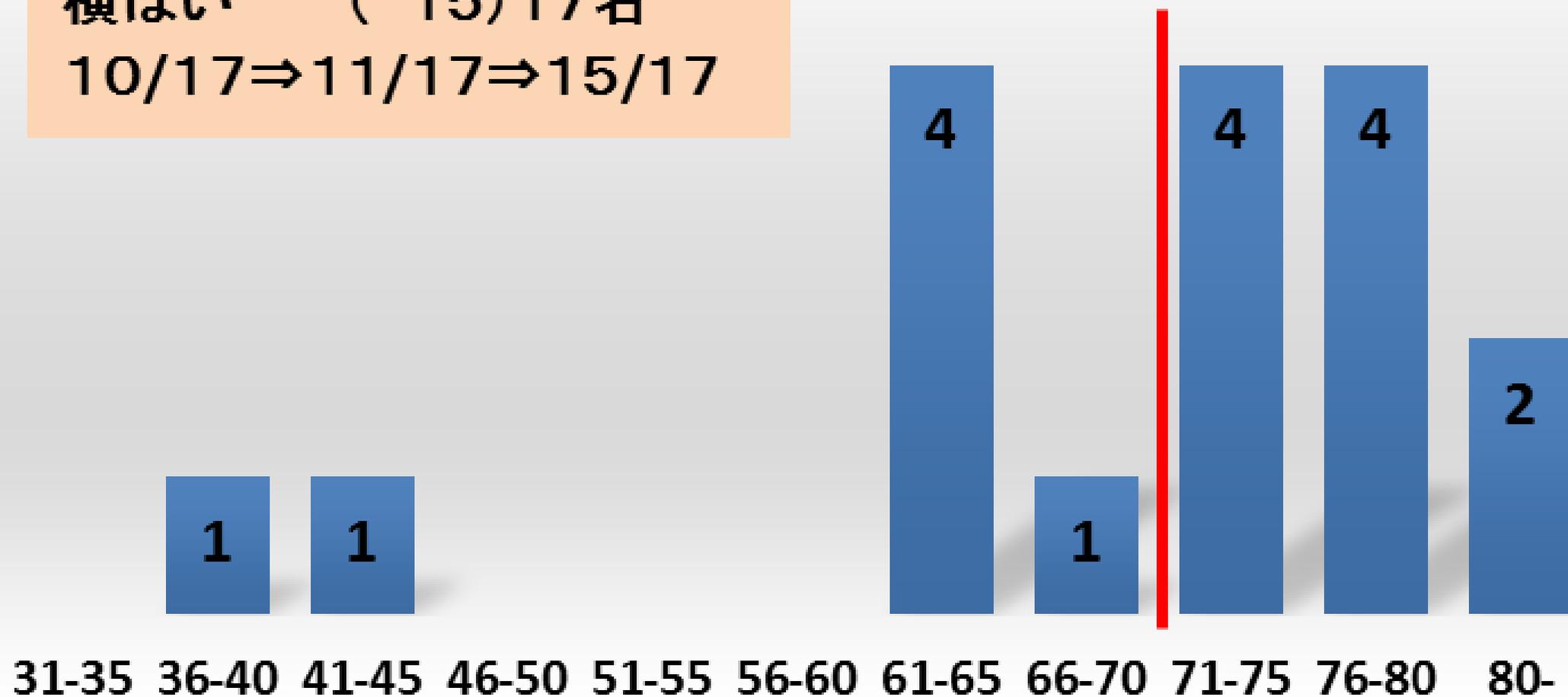
神戸学園都市クラブ年齢別メンバー数 (2015)

微減 ('15)15名
8/15⇒10/15⇒11/15



芦屋クラブ年齢別メンバー数(2015)

横ばい ('15) 17名
10/17⇒11/17⇒15/17



現状から将来への問題点

- 六甲部全体として、メンバーの減少傾向が続いている。今後加速する懸念あり。
- 5年、10年後を見ると70代以上のメンバーが過半数を占める。

⇒神戸西クラブ、さんだクラブの実働メンバー減少、高齢化は近い将来大半のクラブの姿である

クラブ存続のために

①若手メンバーの獲得

- ・40代～50代前半
- ・奉仕活動に興味がある
- ・YMCAの理解者が望ましい

②既存若手メンバーの活動活性化

- ・活動への参加意欲の醸成

実際は若手の獲得が進まない

- ・既に魅力のある例会を実施している
良い会場、美味しい食事、興味深い卓話、
おもてなしの雰囲気
 - ・これまで個別に勧誘を実施してきた
 - ・継続的なユースリーダーとの交流会の実施
- ⇒若者は奉仕活動に興味がない？

ボランティア活動を推進する 社会的気運醸成に関する調査研究 報告書

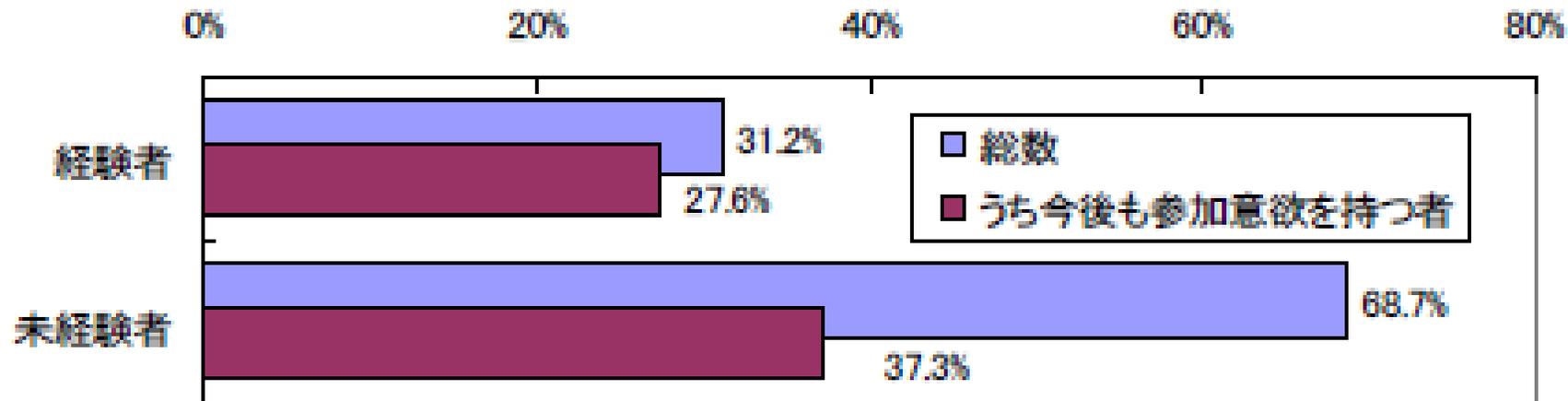
平成 15 年度 文部科学省委託調査

奉仕活動・体験活動の推進方策等に関する調査研究

ボランティア活動の経験と参加意向

- ・ボランティア活動の経験者は、3人に1人の割合（31%）
- ・ボランティア活動への参加意欲を持つ人は、3人に2人の割合（65%）である。特に、活動経験者はその後も参加意欲を持っている割合が高い。

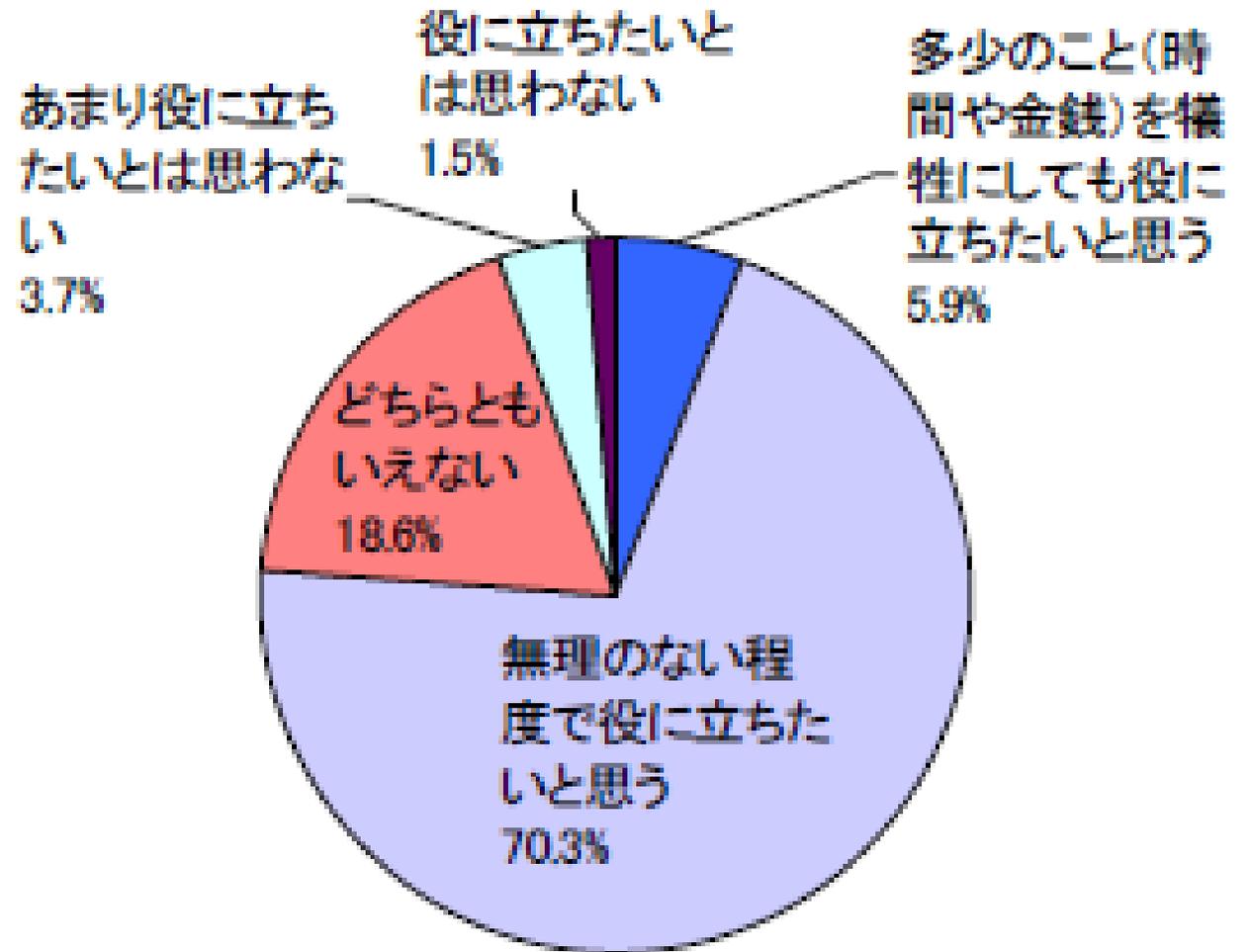
図表 2-1 ボランティア経験の有無と今後の参加意向



図表 2-2 社会への貢献意識

社会貢献に対する意識

・社会貢献意識については、4人に3人の（76%）が、「社会の役に立ちたい」と考え、中でも「無理のない程度で役に立ちたいと思う」人が7割と多い。



ボランティア活動に関する考え方

・ボランティア活動に関して、「参加を強制されないこと」が大切と考える人が8割を超える。その他「気軽にできること」、「社会のためになること」が大切と考える人も多い。

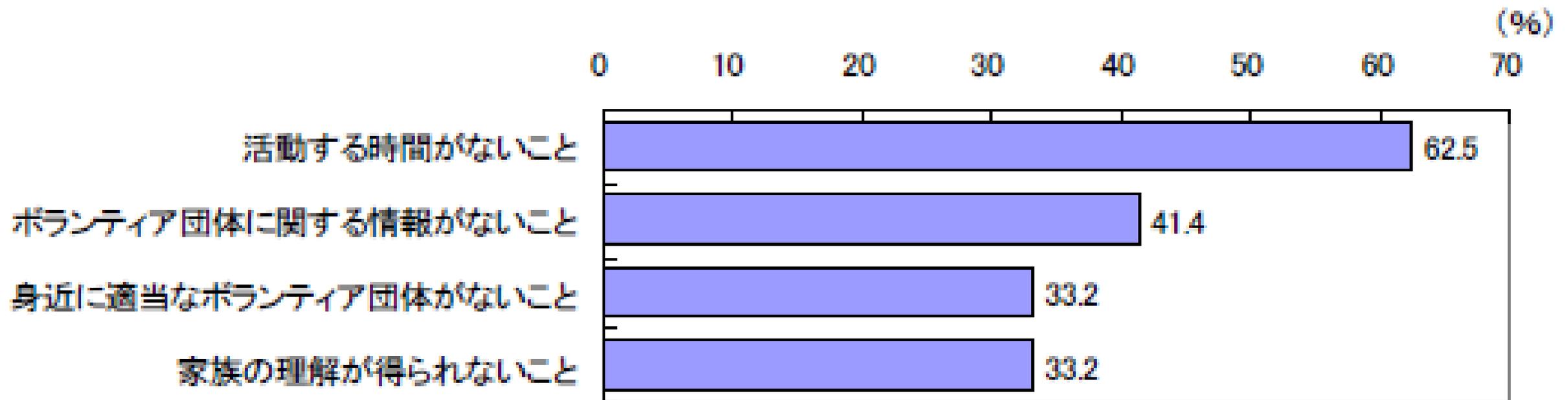
他方、「楽しいこと」、「自分が満足すること」が大切と考える人は5割程度に留まる。

・ボランティア活動に関する考え方を世代別に見ると、「気軽にできることが大切」、「自分を犠牲にしないことが大切」、「自分が満足することが大切」と考える人の割合が若い世代ほど低くなっている。

ボランティア活動の制約要因

・活動の制約となることは、**時間や情報の不足**であると考え
る人が多い。

図表 2-5 ボランティア活動の制約要因



年齢別の行動者率と活動内容

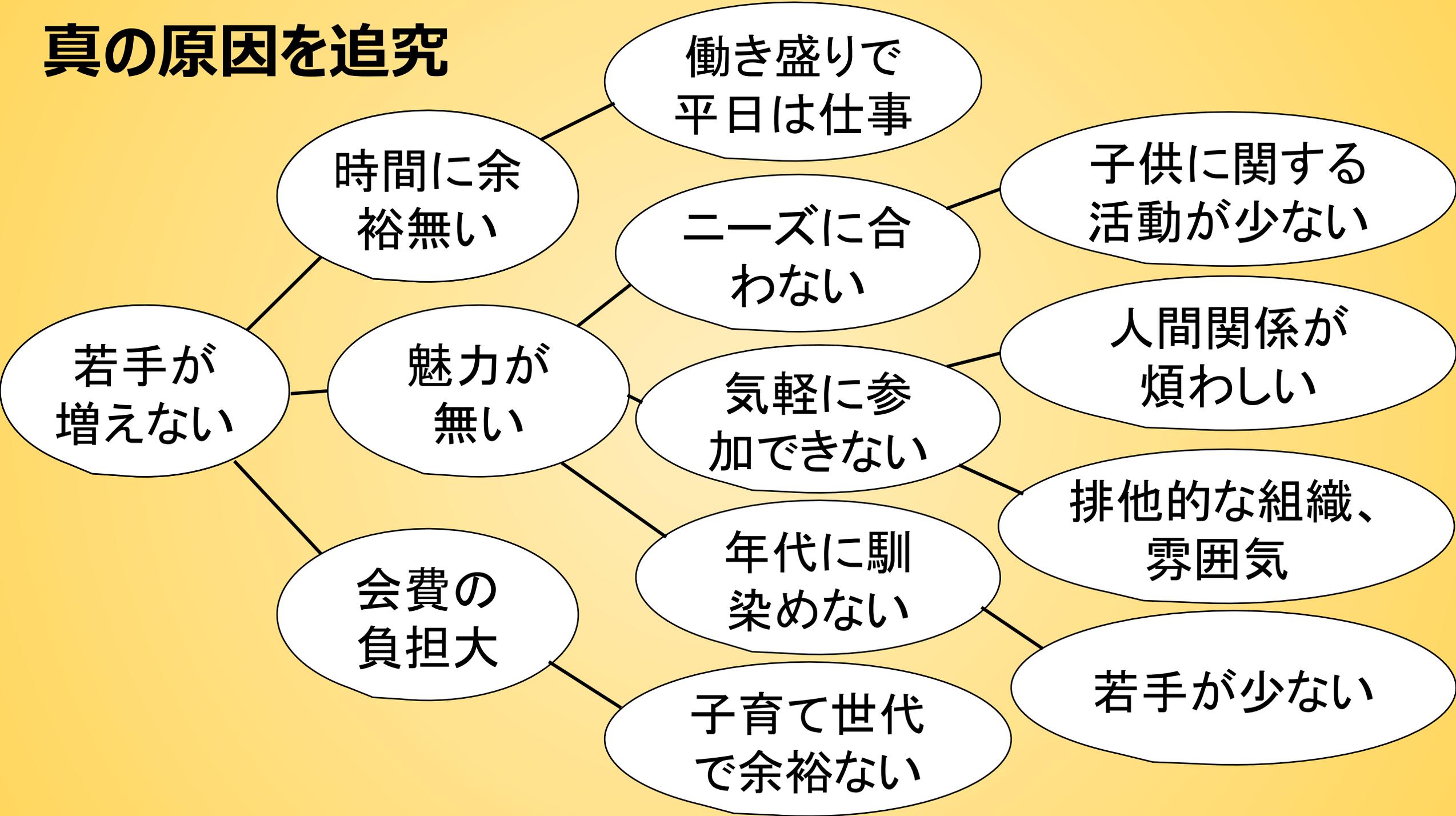
・行動者率を年齢で比較すると、「35～44歳」が37%と最も高く、34歳以下では21%程度、45～74歳では、30%程度である。

これは、「35～44歳」では、学校へ通う年齢の子供を有している者が増加するためと考えられ、活動内容を見ても「子供を対象とした活動」、「安全な生活のための活動」がこの年齢層で大きく増加している。

図表 2-10 年齢別の行動者率とボランティア活動の内容

	総数	健康や医療サービスに関係した活動	高齢者を対象とした活動	障害者を対象とした活動	子供を対象とした活動	スポーツ・文化・芸術に関係した活動	まちづくりのための活動	安全な生活のための活動	自然や環境を守るための活動	災害に関係した活動	その他
総数	28.4	4.8	4.9	2.1	5.4	3.2	13.7	5.6	7.5	1.4	3.2
15～24歳	21.7	6.3	4.8	3.4	4.1	3.2	5.3	1.8	4.5	0.8	2.7
25～34歳	21.4	5.9	1.6	1.2	4.1	2.4	7.4	3.9	5.1	1.1	2.3
35～44歳	37.3	6.2	3.0	1.9	14.7	4.5	17.1	10.2	10.1	1.7	3.6
45～54歳	32.6	4.5	4.9	2.3	5.7	3.9	17.3	7.2	9.2	1.7	3.9
55～64歳	30.7	3.8	7.2	2.4	3.1	3.1	17.3	6.1	8.7	1.8	3.8
65～74歳	31.6	3.2	8.6	2.4	2.8	2.7	18.9	5.6	9.0	1.5	3.8
75歳以上	21.0	2.2	5.7	0.8	1.5	1.3	13.2	2.6	4.5	0.6	2.0

真の原因を追究



対策への要点



どうすれば良いか

- ・時間的制約の解消

⇒活動例会を休日に実施してみる。まずは、年に数回で良い。

- ・気軽に参加できる雰囲気

⇒入会ありきでなく、まずは単発的な奉仕活動の協力の呼びかけから。参加無料（ちょボラ）

- ・子供に関する活動を取り込む

- ・若手獲得を全員で常に意識する（意図した活動）

若手獲得の意図を意識して (メンバーシップバイデザイン by Y M C A)

- (1) 活動に興味を持つ。
- (2) 活動に参加して満足度を得る。また参加したいと思う。
- (3) 関係が深まって、ワイズを理解する。
- (4) 自分自身が変化し、自発的に活動をするようになる。
- (5) 「私のワイズ」と言えるようなオーナーシップを持つようになり、クラブメンバーとなる。
- (6) 新しい会員を誘うようになる。

「一方で」私たち自身の変革も必要

- ・無意識に現状に満足していないか？

「今いるメンバーで出来る範囲の活動で良い」

「自分たちだけでもクラブはやって行ける」

「既に十分な奉仕活動を実施している」

- ・既存の活動をこなすことに精一杯で、新たなリーダーシップ開発を忘れていないか？

（国際憲法第2条 綱領と目的・・・活発な奉仕活動を通じて、リーダーシップを開発、助長、供給して全人類・・・）

結 論

- ・若手獲得を意図した活動例会を実行する

参加し易い日時、活動の協力依頼から、
子供に関する奉仕活動、多くの若手の参加
メンバーシップ バイ デザインを意識する。

- ・奉仕活動に夢を持ち、追い続ける

小さな夢で良い、現有活動を発展させる
若手層の協力を得て、リーダーシップを開発

小さな夢を持つ 現有活動を発展させる

セッション2 クラブ活動説明につづく・・・
ご清聴、ありがとうございました。